

こども通信



梅雨が明けたと思ったら強烈な猛暑が待っていました。日本の夏は熱帯なのだと、ため息ながら感じていました。秋が近づき、ようやくしぶきやすくなつてきました。

次は冬。それまでの数か月、穏やかに過ごしたいものです。

* * *

来月、消費税が引き上げられます。
8%から10%へ。

日本は消費税を

1989年（平成元

年）に導入。当初は3%でしたが、

その後段階的に引き上げ（今後もまだ増税がある？）。日々の生活の全てにかかるくる税金ですので、負担感が増してきました。

消費税についてはいろいろと疑問があります。

税は所得の多い者がより多く支払

い（累進課税）、それを所得の少ない者に再分配するもの。消費税は、そんな低所得者からも同じ割合で税の徴収をするので、貧富の差を増大させる可能性があります。

医療は非課税・・そう思われて

いますが、そつではありません。予防接種などの自費診療はすべて課税。保険診療についても、医療機関が支払った消費税は保険診療の料金に「ごつそり」加えてあります。

厚生労働省はその中身を

公開していないために、医療機関に

とつては持ち出しになつてるのではないか、という疑いもあります。

「軽減税率」という良く分からぬ仕組みも加わり、来月の増税はどうどうなるか。心配事の多い秋を迎えるました。

さてどうなるか。心配事の多い秋

感染症情報

今年の夏はいわゆる「夏かぜ」が大流行でした。特徴的な症状や所見があるものでは、手足口病やヘルパンギーナが数年ぶりの流行となりました。手足口病は文字通り手足や口の中にブツブツができる病気ですが、通常はあまり発熱することがなく、食事が摂れる状態であればそのまま登園していくかまいません。

それに対してヘルパンギーナは発熱とともに喉の痛みが強く、飲食を摂りづらくなります。喉の入り口（軟口蓋という場所）に水疱があるので特徴があります。名前の由来も、「水疱（ヘルペス）」と「締め付けられるような痛み（アンギーナ）」が合わさってできたものです。こちらは数日休んでいる必要があります。

過去、手足口病の流行から数週間から数か月後に手足の爪がはがれるような変化が見られたことがあります。これは一時的に爪を作る細胞が障害されたための症状ですが、その後また爪は作られるので、何も治療せずに普通の状態に戻ります。

感染性胃腸炎の発生も、夏場なのに続いていました。

R Sウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の発生もあります。気管支炎や喘息発作の状態になります。

溶連菌感染症やアデノウイルス性咽頭炎も発生しています。いずれも熱と喉の痛みが特徴です。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

インフル予防接種のご案内

- 9月 10日（火）朝からネットでご予約を受け付けます。
- 接種は 10月 18日から始め、平日昼間（月・火・金）と土曜午後の専門外来で行います。
- 料金は 1回 3,600円（10%消費税込み）。12歳以下は 2回、13歳以上は 1回の接種です。
- 今年多くの方から接種を受けていただけるように準備しています。よろしくお願ひします。

<http://www.0255447777.com/i/>



今月の予定

院長出務

上越市乳幼児健診 18、25日

上越市夜間診療所 18日

上越有線放送 「健康ライフ」 20日

FM 上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

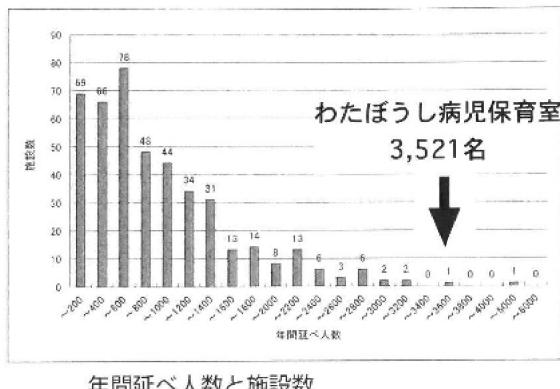
毎週木曜午後 1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報（毎週）

FM 上越：木曜午後 1:35頃～

上越有線放送：月曜午後 6時～（番組内）

**全国病児保育協議会加盟施設実績調査結果
(平成29年度)**



「病児・病後児保育」は全国に拡がり、施設数は年々増加。現在は約2千ありますが、今年度中にさらに百か所ほど増えるそうです。

全国病児保育協議会が毎年調査を行っていますが、先日、平成29年度の実績結果が公表されました。

それによれば、1施設あたりの年間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

間利用数は平均で675人。グラフから分かるように、比較的小規模な施設が中心で、7割は年間1千人未満。年間利用が2千人以上の施設(この報告では「超大型施設」という分

類)は34か所あります。

当院はこの年は3521人。何と全国で2番目に多い利用でした。

とがとても大切だと思っています。だから断らずにお預かりします。

すことなく、受け入れを続けました。このようなことが続くようであれば、受け入れの制限が必要かも・。そう頭の片隅をよぎりました。

●でも・

7月から8月にかけて、夏かぜになりました。通常の2倍以上の利用。

多い日は30人を超えての保育。それも数週間続いていたので、保育士などが疲労困憊。それでもこれ

が病児保育の基本。やはり今までの方針を堅持していくこうと思っています。今後ともご理解をお願いします。

は非常事態なのだと考え、門を閉ざすことなく、受け入れを続けました。

なぜなら、子どもの病気は急に始まるけれど、大人は急には仕事を休めないことが多いから。とくに専門職など、責任をもつて仕事をしているとそうですよね。私たち医療従事者がその典型ですので、「大人の事情」はよく理解できます。

わたぼうし病児保育室は2001年に事業を開始しましたが、この間に吐きぐせに六君子湯

経験的漢方論 (9)

吐きぐせに六君子湯

「六君子湯（りくくんしどう）」の話の続きです。胃の働きを改善させる働きがあり、私の胃食道逆流に伴う痛みにとても効果がありました。

この漢方は、実は私自身に対してではなく、ある赤ちゃんに処方したのが初めての使用経験でした。

生後間もない頃から吐きぐせがあり、周囲が困っていました。せっかく授乳してもすぐに吐き出してしまう。授乳後の排気(ゲップ)も上手にできず、やつと排気をさせてから寝かしても、また吐き出すことがたびたび。日に数回は嘔吐。そのまま寝かすことができず、親がだっこして眠らせるようになってきました。こうなると親も睡眠不足。

以前読んだ医学雑誌に、こういった時の治療方法が記載されているのを思い出しました。いわゆる西洋薬では胃酸分泌を抑制する薬が紹介されていました(私も服用経験があります)が、小さな子には使いにくいですね。もう一つ紹介されていたのが、この「六君子湯」です。

さっそく取り寄せて処方してみると・・すぐに効果がありました。嘔吐の回数は確実に少くなり、しだいにパパの胸から下りてベッド上で眠れるようになってきました。

こういった治療経験があるので、吐きやすい赤ちゃんには六君子湯による治療をお勧めしています。使えばやはり効果があります。

六君子湯は私の診療範囲が広がったと実感した漢方薬です。西洋薬では対処しづらい時でも漢方治療という別の一手を打つことがあります。